

加藤周一さんからの 手紙

池田知隆

「雑誌『上方芸能』は、関西だけでなく、日本文化の宝です」。評論家、加藤周一さんからそんな手紙をいただいたのは、もう20年ほど前のことだ。当時、毎日新聞社の学芸面のデスクをしていた私に、『上方芸能』への応援を切々と訴えられた。

大阪の地で長年、雑誌を出し続けているのに、あまりにも報われていない。30年に及ぶ雑誌の発行は、新聞社の出版文化賞の対象にはならないのだろうかというのだ。立命館大学の同僚として木津川さんの苦勞を目にしていた加藤さんなりの思いやりだった。

それからまもなく木津川さんには「菊池寛賞」が贈られたが、多くの文化人の目には遅すぎた授賞だと映った。

私がいま、市民による学びと交流の場として開いている「大阪自由大学（一般社団法人）」の初代学長に木津川さんをお迎えできたが、そのことでどれだけイメージアップを

図れたか、感謝に堪えない。大阪の文化の灯を守りたい、との木津川さんの「たいまつ」をできるだけ受け継ぎたいと思っている。

（熊本県出身。元毎日新聞論説委員、元大阪市教育委員長、現在大阪自由大学理事長）